

自己点検・自己評価報告書

2018年3月31日現在



専門
学校

静岡工科自動車大学校

目 次

・1.学校の教育目標	1
・2.本年度定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画	2
・3. 評価項目の達成及び取組状況	3
(1). 教育理念・目標	3
・学校の理念・目的・育人人材像は定められているか	
・学校における職業教育の特色は何か	
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	
・学校の理念・目的・育人人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	
・各学科の教育目標、育人人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	
(2). 学校運営	4
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか有効に機能しているか	
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	
(3). 教育活動	6
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	
・教育理念、育人人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	
・授業評価の実施・評価体制はあるか	
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことのできる要件を備えた教員を確保しているか	
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	
・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取組が行われているか	
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	
(4). 学修成果	9
・就職率の向上が図られているか	
・資格取得率の向上が図られているか	
・退学率の低減が図られているか	
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	

(5). 学生支援	10
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	
・学生相談に関する体制は整備されているか	
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	
・学生の生活環境への支援は行われているか	
・保護者と適切に連携しているか	
・卒業生への支援体制はあるか	
・社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	
(6). 教育環境	12
・施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修について十分な教育体制を整備しているか	
・防災に対する体制は整備されているか	
(7). 学生の受入れ募集	13
・学生募集活動は、適正に行われているか	
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	
・学納金は妥当なものとなっているか	
(8). 財務	14
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	
・財務について会計監査が適正に行われているか	
・財務情報公開の体制整備はできているか	
(9). 法令等の遵守	15
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	
・自己評価結果を公開しているか	
(10). 社会貢献・地域貢献	16
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	
(11). 国際交流	17
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	
・留学生の受入れ・派遣・在籍管理等において適切な手続きがとられているか	
・留学生の学修・生活指導について学内に適切は体制が整備されているか	
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	
・4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	18

1. 学校の教育目標

学校法人 静岡自動車学園 経営方針

技術者の育成をもって地域社会に貢献する

専門学校静岡工科自動車大学校 教育理念

社会のニーズにマッチした高いレベルの専門教育と人間性の育成

(専門学校事業の事業ビジョン)

- 1) 専門学校静岡工科自動車大学校は自動車整備士養成機関として県内自動車関連業界に貢献するため、新規事業導入及び現在行っている事業の多角化や改善の取り組みを活発なものとし、提供可能な付加価値を求め更なる発展を目指す。
- 2) 定員確保は学校経営の根幹であることは勿論であるが安定した在籍数を確保すると同時に、質の高い学生を輩出するため日々改革・改善を意識し次の成長を目指す。
- 3) 広報戦略の再構築を行い県内のみならず、近県主要地域の開拓を推進し知名度向上と学生数の安定確保を目指す。
- 4) 事業領域を広げるため現状の単一校経営に留まらず機会あれば複数校経営に積極的にトライし事業の効率化と複数化を目指す。
- 5) 教職員間に競争原理を取り入れ個々のスキルアップを図ると同時に、分掌・科目等において常に後継者育成を念頭に置いた能動的活動を行いコア的な存在を目指す。

(専門学校事業目標)

- 1) 完成年度在籍数560名確保のため、毎年度目標に示した入学者を確保する。
- 2) 一級自動車整備士養成課程を核とし、これと連動した研究科等関連課程の再構築。
- 3) 教職員の資質向上を図り社会的評価を高める。(知識・技術＋指導力)
- 4) 広報活動の推進(保護者・高校・企業との信頼関係強化)
- 5) 施設拡充引当特定資産相当の内部留保を3年間累計1億5千万円確保する。
- 6) 専任教員の講師比率を高めるなど、固定費の流動化や費用構造の改善を図り、事業活動収支差額比率15%を確保する。(目標約15~20%)

(職員の行動規範)

- 1) 仕事に対して責任を持つ(教育者としてどうあるべきか日々自問自答)
- 2) 担当業務のエキスパート(プロフェッショナル)を目指す。(自己研鑽に励み職場に必要な人材に)
- 3) 顧客(学生・高校・企業・保護者)の声に素直に耳を傾け顧客から学び顧客の期待を裏切らない。
(知識・技術の習得は勿論のこと人間力の育成も重要視した教育)
- 4) コスト意識を持って計画的に仕事をする。(1人ひとりが経営者としての考えや行動を)
- 5) 自己研鑽を通じ常に向上して行く。(自ら知性と教養を高めると共に守備範囲拡大に努める)

2. 本年度定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

目標と方針

1. 運営目標

(1) 入学募集定員の充足

① 新入生募集205名

自動車整備科 140名、自動車システム工学科 40名、国際オートメカニク科 25名

※全職員による募集活動を展開

② 進学学生45名

自動車システム工学科 10名、ボディデザイン研究科 25名、ハイエンジニア研究科 10名

※1級課程、研究科の教育成果向上(魅力度UPと授業内容の見える化)

2. 重点実施事項

(1) 教育成果の向上(学校評価向上)

① 資格取得率の目標達成

自動車システム工学科、ファーストクラス研究科 … 一級小型自動車整備士 90%

自動車整備科、自動車システム工学科、国際オートメカニク科

… 二級(ガソリン・ジーゼル)自動車整備士 100%

ボディデザイン研究科 … 自動車車体整備士 100%

モーターサイクル研究科 … 二級二輪自動車整備士 100%

ハイメカニク研究科 … 職業訓練指導員試験 80%

その他の資格は前年度以上の合格率、取得率を目指す

※科目担当者による実力の底上げ、授業の効率化、モチベーションの維持、向上

② 退学者の減少(15名以内)

③ 就職斡旋希望者全員内定(内定率100%)

(2) 教職員個々のレベルアップ

① 授業アンケート評価の向上(個人は昨年度比+1%向上、全体平均 76%以上)

※授業の自己評価と研究授業の活用、リーダーの助言・指導

② 目標資格の取得(資格取得1種目以上)

③ 実力確認試験の点数向上(専門科目 75%以上、業務知識 70%以上)

(3) 学校認知度の向上

① 静岡カーフェスティバルの成功(来場目標数 1,000人)

② クラブ対外成績の向上

サッカー、野球(全国大会出場)、バレー(県大会優勝)、

エコラン、ソーラー、学生フォーミュラ(昨年以上の成績)

(4) 業務の効率化と経費節減

① 業務の効率化(ムリ、ムダ、ムラの排除)

② 経費節減(通常経費-10%)

※EA21活動を推進し、エネルギー削減目標を達成

最終更新日付

2018年2月21日

記載責任者

岡部 剛

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

評価項目	具体的取組	評価	課題と改善策
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	経営理念、教育理念を定め、職員に周知徹底をしている。育成人材像は科ごとに企業ニーズを満たすよう見直し、指導目標の統一を行っている。	4	現在、学校及び科毎のディプロマ・ポリシーを策定。今後カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーも策定する予定である。
・学校における職業教育の特色は何か	自動車エンジニアとして基礎・基本である知識・技術を確実に身に付けるような教育を豊富な種類の教材と多様な学科構成により行っている。	4	自動車エンジニアとして「安心、安全」を意識した行動が身に付くように教育を徹底していく。
・社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	中期経営計画を作成(28年度から30年度までの3年間)し、これを基に2020年に向け工科ビジョンを策定、展開している。	4	自動車テクノロジーの高度化等、社会環境の変化に対応できる人材を育成するための教育課程及び教育設備を整備していく。
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	各学科の教育目標、育成人材像については学生便覧に明示し、その目標に向かって人材育成に努めている。学生便覧は学校ホームページにて周知している。	4	現在の取り組みを継続推進。現在3つのポリシーを策定中であり、30年度中に公開、運用を予定している。
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	企業と連携した授業やインターンシップにより学生が直接業界ニーズを感じることができている。また育成人材像も毎年見直しを行い、業界ニーズに合致させている。	3	年々企業との連携が密になっており、様々な機会を設け成果ある教育活動に発展させたい。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

学校の理念・目的・目標については、創立時の精神を受け継ぎ、時代や業界ニーズに合った人材育成をするための将来構想である中期経営計画(H28～H30)を立案し、学校運営を行っている。また、2020年の当校のあるべき姿を基に工科ビジョンを策定、その重点方針を教職員に明示し、日々の教育活動を行っている。

また30年度運用に向け、3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)を策定し、育成人材像を軸とした教育内容、募集活動の方針を確立するとともに、PDCA展開による教育の質向上に取り組む予定である。

上記理由により、評価項目については概ね達成できていると評価している。

② 特記事項

3年毎に中期経営計画を立案・実行している。

2020工科ビジョンを策定し、運用している。30年度運用に向け、3つのポリシー策定中。

参考資料No. (1 平成29年度静岡工科自動車大学校組織図、2 平成29年度 目標と方針、3 中期経営計画書、4 学生便覧、5 情報公開資料(学校情報)、(学校ホームページ)、工科ビジョン説明資料)

最終更新日付	2018年2月21日	記載責任者	岡部 剛
--------	------------	-------	------

(2). 学校運営

評価項目	具体的取組	評価	課題と改善策
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	毎年度、目標と方針を策定し、職員全員に周知するとともに、各課においても目標と方針に沿った具体的な目標を定め、活動している。	4	経営環境の急変な対応については速やかに行動したい。 また、教職員の情報アンテナを高くし、問題の共有化を推進したい。
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	中期経営計画達成のため、毎年度の事業計画及び予算計画を策定している。実施時期も明確に策定し、計画どおりに実行している。	4	経営環境の変化により実施を見直すことや時期がずれることがあるが、先見性を磨き精度を高めていきたい。
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか 有効に機能しているか	毎年運営組織・分掌を明示した組織図を作成し、職員に周知している。 意思決定機能も組織図により明確であり、機能しているが、運用面で多少問題が生じることもあり、徹底が必要である。	3	縦、横の連携が悪く、意思や行動の統制が上手くいかない場面もあった。 改善策として、決裁後の起案文書、議事録等を全職員に配信しているが、今後はその効果を検証していく。
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	服務規程により人事、給与については整備されている。教職員の待遇についても、有期契約職員の正規雇用と教特手当アップなどの整備を行っている。	4	教職員の待遇の向上が図られたこと及び信賞必罰の人事を明確に打ち出すことより、教職員のモチベーションが向上し、教育活動の充実に繋がることを期待する。
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	組織整備については教務課、入試・進路課、総務課の幹部職員により協議、調整を図り、決定している。	3	一部、コミュニケーション不足による課の連携が悪い場面が散見されたが、管理職及びリーダーの職責や役割を明確にし、研修やOJTによる意識の変革を促したい。
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	法令順守については個人情報管理等の規程を制定し運用している。 また、教職員業務対応手順を作成し、苦情等対応も含めた体制を整備している。	3	運用面において職員の意識やモラルに問題が見られるケースがあり、規程に関しては都度周知徹底を図りたい。
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	文部科学省の情報公開ガイドラインに沿った学校情報をホームページ上に公開している。また日々の教育活動もホームページやSNSで公開している。	4	学校として詳細な情報を公開しているが、悪用される可能性がある情報も含まれているため、今後、公開情報の精査をしていく。
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	教務、募集、経理、勤務等を統括したシステムを運用しており、今年度は通常経費に関する電子決裁システムを構築し、業務の効率化を図った。	4	情報管理システムは、管理者による内製であるが、管理者が不在時、故障対応等に支障を来すことが想定される。複数の職員による情報の共有化を図ること及び、その人材育成が急務である。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

学校運営に関する人事、教務に関する規程等、組織の整備は整っており、毎年運営方針を定め、職員に周知徹底を図っている。また、職員の待遇面についても見直しを実施。教員給与規程を改定し運用している。

意思決定機能は組織図上明確となっているが、運用面においてコミュニケーション不足(報・連・相)の場面があり、その対策として決裁後の議事録、起案文書を全職員へ配信することを徹底、情報の共有化及び意思・行動の統制を図った。

今後は効果の検証を実施し、学校運営の円滑化のため、更なる職員の意思、行動の統制を図りたい。

コンプライアンスにおいては職員個々の認識に差があるが、当校の教職員として相応しい人格の形成を図りたい。

学校運営に関する評価は昨年と同じだが、対策による効果は少しずつ表れてきている。今後も更なる改善を図りたい。

② 特記事項

研修、面談の他、様々な機会をとおして職場のコミュニケーションを高め、職員の相互理解と意思決定プロセスについての周知徹底、浸透を図りたい。

参考資料No. (1 平成29年度静岡工科自動車大学校組織図、2 平成29年度 目標と方針、3 各課の目標と方針(教務・学生・広報・総務)、4 中期経営計画書、5 平成29年度事業計画案、7 チャレンジシート・考課表、9 学務システム管理要領、16 会議一覧、57 情報公開資料(学校情報)、58CD(規程集、個人情報保護規程、情報公開に関する内規、議事録))

最終更新日付	2018年2月21日	記載責任者	岡部 剛
--------	------------	-------	------

(3). 教育活動

評価項目	具体的取組	評価	課題と改善策
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	教育課程の編成については、「教育課程編成に関する規程」を定め、教育課程を編成及び実施している。	4	定期的に見直しを行っており、特に課題を感じていない。
・教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	教務課の目標として、教育到達レベルを提示しており、教職員は目標とする育成人材像に近づくよう教育活動を展開している。H29年度はH28年度に定めた各科の育成人材像についての見直しを行い、各教室に掲示した。	4	育成人材像及び育成目標について明確化しているが、実際の教育にどう反映させるかが課題である。卒業後5～7年先のあるべき姿を明確化した育成目標としたい。
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	各学科の目標達成に向けカリキュラムが構成されている。国土交通省が監督官庁であるため指定基準が決められており、不定期ではあるが基準内でカリキュラムを見直し、業界との格差が発生しないようにしている。	3	定期的に見直しを行ってきているが、現在のカリキュラムになってから数年が経っているため、検証及び改訂を検討していきたい。
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	教務目標に社会人として必要な人間性（社会人基礎力）を身に付けることを目標としており、担任を中心に指導を実施している。学校関係者評価委員会の外部委員からの意見についても可能な限り導入している。	3	キャリア教育を行う上で職員のスキルアップが課題である。また、学校としてのキャリア教育プログラムを構築する必要がある。
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	企業及び業界団体から委員を迎えカリキュラム編成委員会を開催している（5月、8月の2回）その中で、シラバスの見直しを行った。	4	今後も定期的に見直しを行い、企業ニーズに合った教育になるよう改善したい。また企業からの意見により実施している、整備作業アンケートの結果を踏まえ、授業に反映していきたい。
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	すべての科においてインターンシップを実施している。企業と連携し1年生に対しては自動車点検実習、2年生に対しては、大型自動車実習を実施しておりシラバスにも明記している。	4	企業側も学校教育に協力的であり、特に課題を感じていない。
・授業評価の実施・評価体制はあるか	授業評価は年2回実施しており、各期末に全体の評価結果を公開している。また、評価の低い授業担当者には教務課長が個人面談を実施し授業のアドバイスをを行うことで改善を図っている。	3	アンケート結果の目標を76%以上とし、個人の目標に結び付け評価している。今年度は目標であるA項目76%以上を達成したが、昨年度を若干下回ってしまった。
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	学校関係者評価委員会により評価を行っている。	4	学校関係者評価委員会にて評価をいただいているので、特に課題を感じない。

・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	成績評価基準は学校側の主導により明確に定めてあり、学生には学生便覧(教務規定掲載)を全員に配布し周知徹底している。	4	学生便覧(教務規定掲載)に明記されており、特に課題を感じていない。
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	整備士資格以外はカリキュラム上には定められていないが、放課後等を利用し、資格取得のサポートをしている。必須資格と選択資格に分け学生の能力・ニーズにより選択できる体制をとっている。	3	昨年度は資格合格率、取得率とも成績が向上したが、今年度も同様の成績を修めることができた。しかし資格によっては合格率、取得率が上がらないものもある。また、年度により成績に大きな差が生じないように実施要領を定めたい。
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことのできる要件を備えた教員を確保しているか	第一種養成施設の指定基準に準拠する必要があるため資格や経験年数及び学歴等を満たした教員を採用している。また一級取得職員2名の採用があった為、若干ではあるが取得率は向上した。	3	職員の一級整備士取得率が他校に比べると高くない。朝礼や職員会議等において啓発を行い、教職員の意識改革を行いたい。
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	今年度も1年間、企業から社員を兼務教員として本校に出向させていただき、実践的な教育を提供する取り組みを実施した。	3	社会の慢性的な人材不足に伴い、本校においても人材確保が困難な状況である。今後は他の企業とも連携し優れた教職員の確保に努めたい。
・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取組が行われているか	整備振興会による新技術研修は毎年全教員が受講している。新技術に関しても企業と連携し、研修を実施した。また、今年度も年間を通して指導力向上研修を計画し実践した。	3	昨年度から引き続き、指導力向上研修を実施したが、指導の統一を図るためにも来年度も継続したい。また、外部研修に関しては、より積極的に実施していきたい。
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	職員に対し職務要件に応じた本部研修を実施している。その他の研修は個人で希望すれば研修に参加させている。	3	特に課題を感じていない。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

キャリア教育を行う上で職員のスキルアップが課題となっているため、職員への教育を適宜実施していくことが必要である。また、入学生の基礎学力低下が顕著であり、業界ニーズレベルまで到達させることが年々困難となっている。今後は学生の一般常識の知識習得を図り、組織的・計画的なキャリア教育により企業ニーズに対応した教育活動を推進したい。概ね良い自己評価であるが、教育活動は学校運営の柱であり、学校評価に繋がる最も重要なことと位置づけているため、今後も教育活動の充実を図ることが大切であると考え。

② 特記事項

平成29年度 社会人基礎力評価表を全学生に配布し実施。
平成29年度 整備作業アンケートを全学生に配布し実施。
平成29年度 カリキュラム編成委員会編成。年2回の委員会を開催。
企業から社員派遣1名（H29.4～H30.3）
各科、学年に応じた育成モデル像を見直し各教室に掲示。

参考資料No. (2 平成29年度 目標と方針、3各課の目標と方針(教務・学生・広報・総務)、4 中期経営計画書、6 学生便覧、8 教職員の増減、10 資格試験結果一覧・整備士試験合格率推移、11 企業ニーズ調査資料、12 学則変更推移、14 授業研究報告書、15 授業アンケート結果1期、2期分、18 研修計画・実績、22 インターンシップ実績報告、45 専修学校設置基準、52 教育課程編成に関する規程、カリキュラム編成委員会規程、53 カリキュラム編成委員会議事録、54 企業と連携した実習実績、57 情報公開資料(学校情報)、58CD(規程集))

最終更新日付	2018年2月26日	記載責任者	石井 仁
--------	------------	-------	------

(4). 学修成果

評価項目	具体的取組	評価	課題と改善策
・就職率の向上が図られているか	無料職業紹介所の届け出を行い、求職票を提出した学生を対象に就職斡旋を行っている。面接指導や書類作成に関する指導は担当がきめ細かく行い、就職率の向上を図っている。本年度も就職内定率は100%である。	4	学生の希望が特定の企業に集中する傾向がある。多数の企業に人材を送り出すという観点からは好ましい状態ではないので、希望者が少ない企業を学生と結びつける方策も検討する。
・資格取得率の向上が図られているか	教員は各資格に対する合格率の目標を個人の業績目標としている。本年度の合格率は危険物、ソーシャル検定上級、職業訓練指導員、日本語能力検定N1が低下したが、ソーシャル検定中級と日本語能力検定N2が向上した。	2	過去に出題された問題やそれに類する問題についての正解率が高いが、新傾向の問題についての対応力が低い。成果の上がる学習方法を再検討する必要がある。
・退学率の低減が図られているか	年度初めに退学者の目標値を定め、各月の職員会議で状況を示し、組織的、計画的に退学者の減少に努めている。担当が面談等を行い、対応が困難な場合は主任、教務課長が指導を実施する。	3	昨年度に比べ29年度1月末では退学者が減少した。経済的理由や健康面等のやむを得ない理由による退学が多いが、年度末に近づくにつれ学業不振から進路変更を申し出る学生が増えてくるので、モチベーションを下げない指導を行う必要がある。
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	企業との情報交換により把握するよう努めている。静岡スバル自動車様の卒業生がラリーメカニックとして活躍し、その報告会を行った。	3	卒業生の活躍を把握するためには、企業との連携を密にし、情報入手の機会を多くすることが必要である。
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	今年度も企業実習や技術セミナーでOBが技術指導を行うことが多く、卒業生の成長を感じることができた。	3	定期的に「将来を見据えて学生をいかに育てるべきかの企業ニーズ」を調査する必要がある。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

毎年教育内容(シラバス及びレクチャー)の改善を行っており、その成果が少しずつではあるが表れてきている。就職率と退学率については、目標とする結果(数値)が出ており、今後も継続して成果を出していく。本年度からアーク溶接特別教育とタイヤ空気圧充填特別教育を1年生に対して実施することにした。資格取得率については資格により資格試験対策改善の余地があり、より高い取得率となるような取り組みを検討・実施し改良を重ねていく。卒業生の活躍・成長については積極的に情報を取り入れる仕組みがないので、「勤続しているか、現在の地位・待遇の状況、その人物の長所短所」などを企業へ調査(アンケート)を行い、企業ニーズの把握に努めたい。

② 特記事項

特になし。
参考資料No. (9 学務システム管理要領、10 資格試験結果一覧・整備士試験合格率推移、11 企業ニーズ調査資料、19 科別進路状況、就職成果、20 退学者推移、52 教育課程編成に関する規程、カリキュラム編成委員会規程、53カリキュラム編成委員会議事録)

最終更新日付

2018年2月22日

記載責任者

高柳 守孝

(5). 学生支援

評価項目	具体的取組	評価	課題と改善策
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	本校では無料職業紹介所を開設し、職業指導の基本方針、対策、情報収集、求人開拓のための企業訪問等を積極的に展開し多数の求人獲得に努力している。今年度からは電子求人システムを導入し本校学生ならば誰もが自由に閲覧できる。このシステムでは企業研究や企業比較、採用試験エントリーまで行うことができる。	4	電子求人システムの導入で多くの求人情報を閲覧することができる環境が整った。しかし、各学生の希望企業や活動状況が掲示板で閲覧できた昨年度とは違うため、企業間の応募人数の偏りの発生を把握するのが採用試験直前となってしまった。新システム導入前の様々な手法も併用し改善したい。
・学生相談に関する体制は整備されているか	学生からの相談は、主にクラス担任が対応する。更にそれを科の主任がカバーする。またセクハラに関する相談担当者も常駐している。女性教員や保健室、入試・進路課など気軽に相談できる窓口も用意され学生の相談体制も整っている。	3	学生の相談体制について、相談内容によっては単独よりも複数の教職員が関わった方が、問題のとらえ方が深く厚くなるケースもあるため、教職員間の情報共有を密にしている。また、入試・進路課という新体制になったことで入試から就職までを一貫して指導できる体制が整った。
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	入学金の減免、授業料の減免、下宿生への支援金供与、日本学生支援機構等の奨学金制度、本校独自の企業奨学・推薦制度等、学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しており専門学校評価基準を十分に満たしている。	4	諸制度の範囲で授業計画をスリム化することで、余暇時間を増やし、アルバイトに従事できる時間を少しでも多く設ける。日本人に限られていた企業奨学金制度を優秀な留学生に対しても拡大する計画である。
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	常勤の看護師の対応により学生の健康管理は適切に実施されている。学生の登校状況、保健室の利用(傷病の申し出)状況、薬の使用状況は毎日管理され、心の健康(メンタル相談)にも配慮している。	3	看護師が勤務していない放課後の時間における対応に課題があり、現状では現場にいる教職員の判断に任せている。
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	クラブ活動などの課外活動は授業時間数が多い中でも支援できていると判断している。顧問である職員の負担は大きいですが、大きな不満を持つこともなく積極的な活動、支援を行っている。	3	学生に対してのクラブ活動支援はできているが、休日の活動はクラブ顧問のボランティア精神によるところが大きいので、今後は顧問への支援体制を検討したい。
・学生の生活環境への支援は行われているか	学生寮を持ち遠隔地出身者を優先的に入寮させており、支援は行われている。また、寮以外の下宿生には1万円/月の支援金を供与している。	4	1人暮らしの補助が増加しており、学校収益を圧迫しているが、可能な限り継続したい。また、指定校に在籍し指定校入試基準を満たした合格者には5千円/月の通学費支援を行う。
・保護者と適切に連携しているか	年1回実施される後援会総会後に各クラスでクラス担任と保護者との懇談や個別面談を実施し、保護者授業参観会や個別進路相談会、また必要に応じて「電話連絡」により学生の状況を保護者に連絡報告し、学生状況に関する相互理解に努めている。	4	実現可能な範囲において十分な連携が図られており、特に課題を感じていない。

・卒業生への支援体制はあるか	定期的に同窓会役員会を実施している。また、卒業後の状況についてはインターンシップの訪問に絡めて確認し、フォローアップに努めている。特に整備士資格の未取得者には資格取得の支援を強力に行っている。	3	卒業後、数年経った離職者に対する就職支援の準備はあるが、申し出が少ない。さらなるHPの利用を検討したい。
・社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	入試・進路課が窓口となり企業ニーズの聞き取りを行い、それをカリキュラムに反映させている。職業実践専門課程として企業に授業を実施していただき企業ニーズを直接学生に伝える場も用意している。	4	さらに関連企業団体が気軽に企業ニーズを発することができる体制を検討する。また、集められた企業ニーズをいかに授業に取り込んでいくか工夫が必要である。
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	高校に出向いて、自動車整備士の仕事や整備業界の紹介を実施している。さらに自動車整備の模擬授業も展開している。	3	私たち専門学校が「高校生に対して職業教育を実施すること」を、高校側が望むような手段をさらに提案し推進したい。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

学生の様々な悩みを早期の段階で察知し、励ましや助言、指導を行う教職員個々の指導力(カウンセリング技術など)に差があるので、その差を少なくするための研修などの取り組みを行う必要がある。また、一人の学生に対し職員の総力で指導を行うという意識を持つ必要がある。

卒業生に対する支援については、卒業生と学校が双方向に交流できる仕掛け作りが必要である。現在はHPが身近なツールになることからHPの工夫が必要になっている。

就職支援体制については、学生に多くの情報をリアルタイムに公開するための電子求人システムを導入した。このことにより企業と学生が出会う場、学生が企業を知る機会を用意しミスマッチを防いでいる。

② 特記事項

一人ひとりの学生を全職員で育てる意識を持つことが学生支援の重要な部分であることを意識したい。

参考資料No. (1 平成29年度静岡工科自動車大学校組織図、6 学生便覧、11 企業ニーズ調査資料、19 科別進路状況、就職成果、21 指導要録(副)、24 平成29年度 行事予定表、25 入学に関する諸連絡、26 学校医委嘱受諾書、27 クラブ活動実績、28 合格者の手引き、29 入寮案内、学生さんのための下宿・アパート情報、30 保護者参観会実施要領、保護者相談会実施要領、31 同窓会会則、32 再就職斡旋リスト、38 学生募集要項、52 教育課程編成に関する規程、カリキュラム編成委員会規程)

最終更新日付	2018年2月21日	記載責任者	古澤 浩一
--------	------------	-------	-------

(6). 教育環境

評価項目	具体的取組	評価	課題と改善策
・施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	第一種養成施設の指定基準を満たし有効に活用していると判断する。教育用機器・教材に関しては中期経営計画に沿って年度毎計画的に購入しており、良い教育環境が整いつつある。また企業からの教材車両等の提供が増加している。	3	施設面では物理的容量が限界に近付いているので、学科の再編に伴い計画的に整備する。 老朽化によるトイレやエアコンの修理を実施したが、トイレについてはさらなる補修が必要であり、次年度実施する。
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修について十分な教育体制を整備しているか	一級課程のインターンシップは第一種養成施設指定基準として明確に定められている。その他の学科もインターンシップを8月初旬に設定し、実施した。海外研修は自動車システム工学科4年生がドイツ、自動車整備科2年生がセブ、バリなどの3か所で実施した。	3	インターンシップは学生の就職内定先に依頼しているが、企業の受入れが必ずしも好意的ではないケースがある。インターンシップを経験することで得られる成果を企業へきちんと伝え、インターンシップの必要性を理解してもらう必要がある。
・防災に対する体制は整備されているか	H30.1.1 に災害対策対応マニュアルを改訂し南海トラフ地震への対応、テロ・ミサイルへの対応を盛り込んだ。教職員への地震災害時の連絡体制については緊急連絡掲示板等を活用することで対応している。緊急時の連絡体制は学生にも周知しておりまた、ホームページ上でも緊急時の対応策を掲載し確認できる体制としている。	3	国や県から南海トラフ地震に対する具体的な防災の対応が示されていない。ガイドラインが発表された時点で災害対応マニュアルを改訂する。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

施設や教材・機器類については中期経営計画に沿って計画的に整備しているが、校舎の老朽化による想定外のトラブルが発生することがあり、また、敷地などを含めた物理的な問題に対応するには、5～10年先を見据えた整備計画を立案し長期的な視点で整備していく必要がある。また、少子高齢化と若者の自動車離れの影響から入学者数の大幅な変動があるため、平成30年度～31年度には学科の再編成、定員の見直しなどがあり、それらを踏まえて長期的な検討を始めた。自動車整備科の海外研修については、コスト、人的労力、授業の調整、学生の反応及び学生の成長度について総合的に検討した結果、平成31年度入学生からは廃止することとした。

② 特記事項

3年毎の中期経営計画に従い、計画的に教育環境を整備している。

参考資料No. (4 中期経営計画書、22 インターンシップ実績報告、23 平成29年度 学外実習等、33 消防計画、36 避難訓練実施要領、防災訓練実施要領、54 企業と連携した実習実績、58CD(教室及び実習場状況一覧、教材・機器一覧))

最終更新日付

2018年2月22日

記載責任者

高柳 守孝

(7). 学生の受入れ募集

評価項目	具体的取組	評価	課題と改善策
・学生募集活動は、適正に行われているか	業界の整備士不足に対応できるように市場分析を的確に行った上で募集活動を行っている。また、企業推薦制度は利用者80人程度まで成長している。	3	今後の改善として、整備士希望者拡大に向けた広報活動と保護者に対する経済的なアドバイス等の支援が必要と感じている。また、市場を拡大する必要があるため県外も視野に入れた戦略を展開したい。
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	資格取得状況や就職状況は志願者が専門学校を選択する上で、大変重要な判断材料になる。静岡県を中心とした学生募集活動において数値化した実績公表で教育活動の信頼性を高めるとともに、志願者や各高等学校への職員による説明やホームページ上で情報を公開している。	3	ホームページの「活動紹介」を利用し教育活動を分かりやすく伝えている。本校の各種情報も継続的に発信したい。
・学納金は妥当なものとなっているか	教育内容や他校の状況等を勘案して学納金額の見直しを行っている	4	入学金、授業料、各種諸費用について見直しを行い学納金を改定した。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

今年度も継続的に改善しながら広報活動を行なったが整備士希望者は確実に減少している。先進自動車に対応できる一級自動車整備士の育成を基軸とした教育活動に加え、基礎基本を身につけた二級自動車整備士の輩出が本校の役割と考えている。自動車に興味を持ち、カーエンジニアを目指すことのできる生徒だけに出願させる受け身の募集活動では今後の定員確保できない。そこで、高校1年生に対し従来からのカーエンジニアの魅力と先進自動車に対応できるエンジニアになれることの可能性と重要性を理解してもらい、カーエンジニアを希望してもらえる先を見た活動を徹底したいと思う。

② 特記事項

特になし。

参考資料No. (37 学校パンフレット、38 学生募集要項、39 平成27年度入試応募者数一覧、40 入学選考推移(H25～27)、41 学納金推移一覧表、54 企業と連携した実習実績、57 情報公開資料(学校情報)、58CD(学校ホームページ、シラバス))

最終更新日付	2018年2月21日	記載責任者	古澤 浩一
--------	------------	-------	-------

(8). 財務

評価項目	具体的取組	評価	課題と改善策
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	本校の直近3カ年の財務状況は事業活動収支差額比率が約12%を確保できていることを考慮すれば、本校の財務基盤は良好と判断できる。	2	施設老朽化による改修費の増額、消費税増税等経費の増加要素が増えているため、効率的な予算執行が求められる。
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3カ年毎の中期経営計画に基づき年度の事業計画が作成されている。予算は事業計画による業務目標を達成させるべく適正に決められ、その執行は有効性と妥当性を考慮して厳正に行われている。	4	計画的な予算の立案を近年実施、及び定着しているため、予算の内容については妥当なものになっている。
・財務について会計監査が適正に行われているか	公認会計士により毎年「当年度事務処理状況調査及び財務諸表各項目」について適正に監査が行われている。	4	特に課題を感じていない。
・財務情報公開の体制整備はできているか	私立学校法に基づき制定された「情報公開に関する内規」により財務情報公開の体制は整えられている。	4	内規に定められており特に課題を感じていない。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

専門学校を取り巻く環境が厳しくなっていること、及び施設老朽化に伴う改修費の増加、消費税増税等、財務環境が厳しくなっているため、今後より一層の経営効率化が求められる。

② 特記事項

特になし。

参考資料No. (42 平成26～28年度 主要財務数値、43 令達予算書、補正予算書、44 会計監査計画書、57 情報公開資料(学校情報)、58CD(学校ホームページ、情報公開に関する内規))

最終更新日付

2018年2月28日

記載責任者

為実憲一

(9). 法令等の遵守

評価項目	具体的取組	評価	課題と改善策
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	法令、設置基準や監督官庁の許認可、届出等定められていることが適正に遵守されている。	4	設置基準、法令等の教職員への啓発活動として、H28 年度から業務知識確認試験を実施している。
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	個人情報保護規程を定め、個人情報が漏洩しないようにしている。また業務委託業者とは機密保持契約を締結している。また、年1回、個人情報保護監査責任者による内部監査を実施している。	3	平成 29 年度に学園の個人情報保護規程が改定され、本校の現状が規定を満たしているかの確認と、運用している本校の内規に整合しているかの調査を実施した。
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	自己点検・評価も定着し、毎年見直しをしている。年度末には自己評価について所属長による改善指示をしており、その内容について学校関係者評価による検証も行っている。	4	毎年度、定期的に確認することが義務化されており、PDCAサイクルを有効に回すことができている。
・自己評価結果を公開しているか	自己点検・評価の公開についてはホームページ等で公開している。	4	特に課題を感じていない。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

法令、専修学校設置基準等は、その内容を含めた業務知識確認試験を実施し、教職員への周知を図っている。個人情報保護の管理については、学生に対する職員室へ入室範囲制限の実施、職員回覧物の個人情報が見えないような工夫の実施、パソコンのLANへの接続制限や個人情報の学外持ち出しの制限など、みだりに個人情報が漏れ出ることを防いでいる。また、学園の個人情報保護規程が改定されたことを受けて、現状が適合しているかの調査を実施した。自己点検・評価については本年度も評価要領の見直しを行い、多くの項目において改善が見られる。学校関係者評価も継続して実施している効果が表れており、良い方向に進んでいる。したがって法令等の遵守の評価項目は、概ね達成していると評価する。

② 特記事項

毎年、校内において業務内部監査を実施している。

参考資料No. (57 情報公開資料(学校情報)、58CD(学校ホームページ、個人情報保護規程、情報公開に関する内規))

最終更新日付	2018年2月22日	記載責任者	岡 部 剛
--------	------------	-------	-------

(10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	具体的取組	評価	課題と改善策
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	中学生職場体験学習は積極的に受け入れており本年度は5校18名の実績であった。また、環境問題に取り組みエコアクション21の認証を取得・継続するなど、積極的な取り組みをしている。	3	社会人講座は地域貢献・社会貢献の一環として積極的に取り組んでいきたい。
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	三保清掃活動のボランティア活動を計画し8月は5名の学生が参加した。11月にも同内容の計画をしたが雨天中止となった。	4	時代の要請に合ったボランティア活動になるよう内容を検討したい。
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	県車体整備組合対象の「車体整備士講習」、ロータスクラブ対象の「HV・EV講座」並びに「故障診断器講座」を実施した。	4	依頼があった講習・講座のみ実施した。これ以上増やすことは本来の教育業務に支障が出る恐れがあるので、次年度も今年と同じ実施容量とする。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

学校の施設貸出等は地域や業界への貢献の一環として積極的に行っている。また、中学生職場体験も毎年多くの希望者があり全て引き受けている。

三保の清掃活動は2年目であるが、地元の方からも喜ばれており、今後も時代の要請に合った活動を継続していきたい。業界に対する教育訓練は要望に応じ実施しているが、公共職業訓練等は訓練内容、時間、人的資源がマッチせず実施には至っていない。本年度は県から「求職者対象の職業訓練」の話があったが、訓練期間の途中で本人が訓練を中止した場合には、すでに実施した分の訓練費用も支払われないということから訓練の受諾を辞退した。

② 特記事項

平成29年度 中学生職場体験受入実績 5校(18名)

H22.9.7 エコアクション21認証取得 H29.8.25 中間審査実施

H29.8 三保海岸清掃活動 有志学生5名、職員2名 参加

H29.12 三保海岸清掃活動 雨天中止

参考資料No. (34EA21手順書(バッテリー、ガス溶接)、47 中学生職場体験 受入実績、48 生涯学習資料、49 附帯教育事業資料、50 EA21活動実績、51 ボランティア活動資料

最終更新日付	2018年2月22日	記載責任者	高柳 守孝
--------	------------	-------	-------

(11). 国際交流

評価項目	具体的取組	評価	課題と改善策
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	留学生の在籍が年々増加していること、業界の慢性的な整備士不足に対応するため、留学生の受け入れ拡大を目的とした国際オートメカニック科を設置している。	4	就職先を確保することが課題であるが、今後はさらに業界に対して外国人整備士の必要性を訴えていく必要がある。また整備士資格取得向上に向け、カリキュラムを変更し、他校との差別化をしていく。
・留学生の受入れ・派遣・在籍管理等において適切な手続きがとられているか	留学生の在籍管理等は適切に行われており、毎年名古屋入国管理局から「在籍管理が適切に行われている専修学校専門課程」として認定されている。	4	近年外国人に対する在留管理の方法が変化しているため、留学制度研修会等に参加し、適切に対応していく必要がある。
・留学生の学修・生活指導について学内に適切は体制が整備されているか	学校組織図に入学前、入学後の留学生担当職員を明記し、学修・生活指導の体制を整えている。本年度は留学生全員に対して日本語能力検定 N2 以上を目標に学習指導を行った。	3	留学生の退学者は3名だが、学習面特に日本語能力が原因となっていることが多いので、個々の学生に対応した学習指導体制の強化を図りたい。
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	産業能率大学との連携により、一部の授業を大学の科目として履修することが可能となった。	3	科目履修生制度等の導入の可否について検討したい。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

国際オートメカニック科の募集活動においては応募者が多いため入学定員を25名としている。昨年度より他校からの問い合わせが多く、複数校が視察・見学等のため来校している。今後他校でも留学生学科の設置が増加すると予測されるため、他校との差別化を図るべく教育内容の検討を進めていきたい。

② 特記事項

H29 年度 留学生在籍数 64 名(ミャンマー、ベトナム、インドネシア、中国、ネパール、スリランカ、韓国、バングラデシュ)
H28.4～国際オートメカニック科 定員増(20→25 名)

在籍管理が適切に行われている専修学校専門課程(名古屋入国管理局)

参考資料No. (1 平成29年度静岡工科自動車大学校組織図、6 学生便覧、55 留学生在籍管理

最終更新日付	2018年2月23日	記載責任者	石井 仁
--------	------------	-------	------

4.学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

平成29年度は学校組織を大きく変革し学校運営を行ってきたが、組織編成上良い点、悪い点の両方が表れた1年であった。今年度の大きなイベントとして、「静岡カーフェスティバル」を実施したが目標来場者1000名を超える約4200名の動員があり、学校認知度の向上に大いに貢献する成果であった。行政、企業、団体を巻き込んだ実行委員の積極的な活動と全職員、学生が一致団結した成果であり、今後につながる良いイベントであった。

また、評価の柱となる教育活動であるが、学修成果を表す主要資格試験の合格率は28年度の実績を上回った資格がある反面、一部合格率が低下した資格もあった。今年度は資格対策データの分析とその結果による指導の改善を重点施策として取り組んできたが、今後は担当者が変わっても安定した結果を残すよう、模擬問題の作成、実施方法及びスケジュールについてもシステム化を図る必要がある。授業アンケートについては、1学期はやや下がったが2学期は28年度と同じ実績であり、「+1%」の目標には届かなかったが、高い評価を維持しており教職員個々の努力が数字になって表れたと評価している。

学生指導においては、ここ数年退学者数が減少し教職員の指導力の向上が成果となって表れており、また課外活動においても教職員の熱意ある指導により、運動部では野球部が全国大会に初出場し、サッカー部、バレー部も県大会で優秀な成績をおさめることが出来た。また、エコラン、学生フォーミュラ、ソーラーカーなどのクラブ活動も活発な活動を行い、その成果が表れてきている。教育活動の改善も図られており、ボディデザイン研究科では、カスタムカーのデザイン決定までのアプローチや企業との連携を図る新たな取り組みを行い、デザイン性及び完成度の高い車両を製作することができたことも良い点であった。今後も学術は勿論のこと、基礎人間力を備えた人材育成に指導力を発揮することを期待したい。なお、29年度教育活動の大きな変更点である自動車整備科の習熟度別クラス編成については、教職員がその目的を十分理解しないまま教育活動を実施したため、想定していた効果が得られなかった。習熟度クラス編成の目的は習熟度に応じた授業を行うことにより、“落ちこぼれ”や“浮きこぼれ”を防止し、「休退学者の減少」、「授業満足度の向上」に繋げることである。30年度の改善点として、その目的を理解した教育活動の展開を期待したい。

進路指導については、全員が内定を頂くことができたが、就職年度の学生においてもコミュニケーション能力に欠けている学生が多く見受けられる。今後、会話能力(社会人としての常識含む)の優れた学生を輩出して欲しい。

募集活動においては、前年度の反省から募集要項の見直し、募集方法及びイベントの改善など、出来る限りの対策を講じ職員一丸となって推進してきたが、残念ながら前年度実績を下回る結果となった。ただ、イベント動員数は前年度の実績を大きく上回っており、30年度の募集活動に必要な“種まき”はできているので、今後の反応に期待したい。

最後に、自動車テクノロジーの進歩は早く、指導者的立場にある教職員のスキルが学校評価であると言っても過言ではない。教職員は指導力向上研修や、専門能力確認試験及び業務知識確認試験等で個々の底上げを図っていくとともに、教職員自身が指導者として日々研鑽努力し、学生が期待する以上の教育活動を行って欲しい。